

# [P05] デジタルアーカイブにおける知的創造サイクルの実践的研究:

## 飛騨高山匠の技デジタルアーカイブに関する効果測定モデル

○久世均<sup>1)</sup>, 林知代<sup>2)</sup>

岐阜女子大学文化創造学部

〒501-2592 岐阜市太郎丸 80

E-mail: pfe01173@nifty.com

## Practical study of the intellectual creation cycle in the digital archive.: Effect measurement model about the skill digital archive of Hidatakayama Takumi

KUZE Hitoshi<sup>1)</sup>, HAYASHI Tomoyo<sup>2)</sup>

Gifu Women's University

80 Taroumaru, Gifu, 501-2592 Japan

飛騨高山匠の技の歴史は古く、古代の律令制度下では、匠丁（木工技術者）として徴用され、多くの神社仏閣の建立に関わり、平城京・平安京の造営においても活躍したと伝えられている。しかし、現在の匠の技術や製品についても、これら伝統文化産業における後継者の問題や海外への展開、地域アイデンティティの復活など匠の技を取り巻く解が見えない課題が山積している。

本研究では、知識基盤社会におけるデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという本学独自の「知の増殖型サイクル」の手法により、これらの地域課題に実践的な解決方法を確立するために、「知的創造サイクル」をデジタルアーカイブに応用して飛騨高山の匠の技に関する総合的な地域文化の創造を進めるデジタルアーカイブの効果測定モデルについて試案をまとめたので報告する。

### 1. はじめに

知的創造サイクル専門調査会は、2006年2月に「知的創造サイクルに関する重点課題の推進方策」を策定し、知的創造サイクルの戦略的な展開のための具体的方策を提言した。

この「知的創造サイクル」は、図1に示す記録→活用→創造という循環サイクルのことをいい、これをデジタルアーカイブのサイクルとして捉えると、収集・保存した情報を活用することにより、新たな情報を創り出すというサイクルとして捉えることができる。そこで、この知的創造サイクルをデジタルアーカイブに捉え直して、知的創造サイクルとして提案しているのが「知の増殖型サイクル」である。

この「知の増殖型サイクル」を具体的に飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ（以下、飛騨高山匠の技 DA と呼ぶ）に適用し、知の増殖型サイクルとしての大学や地域資料デジタルアーカイブの効果測定モデルの開発を試みた。このことにより、飛騨高山匠の技 DA を

構築し、その地域資源デジタルアーカイブのオープン化と共にそのデータを有効的に活用し、新たな知を創造する本学独自の「知の増殖型サイクル」を生かして地域課題を探求し、深化させ課題の本質を探り実践的な解決方法を導き出す手法を確立する。

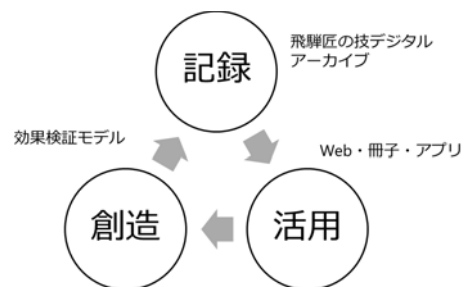


図1 知的創造サイクル

種型サイクル」を生かして地域課題を探求し、深化させ課題の本質を探り実践的な解決方法を導き出す手法を確立する。

### 2. 「知の増殖型サイクル」への適応

飛騨高山の匠の技に関する総合的な地域文化の創造を進めるデジタルアーカイブでは、産業技術、観光、教育、歴史等で新しい「知の増殖型サイクル」を目的とした総合的なデジタルアーカイブとして捉えている。そこで、

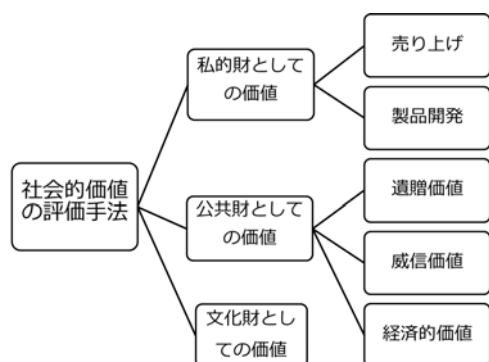


図2 知の増殖型サイクル

これらの飛騨高山匠の技 DA を「知の増殖型サイクル」として適用すると図2のような構成になる。

飛騨高山匠の技の代表でもある家具は、伝統的な産業として国内および海外でも高級家具としてよく知られているが、それ以外の飛騨春慶塗を始め一位一刀彫りなどは、飛騨高山の匠の技の伝統産業とされているものの販売も芳しくないのが実情である。そのために、匠の技を受け継ぐ後継者はきわめてまれな状況であり、飛騨高山の匠の技やところが次の世代に伝承することが困難となってきた。

### 3. 効果測定モデルと新しい評価指標

地域の伝統文化産業を支える財源確保のためのエビデンスの整備は喫緊の課題であり、また、税金だけでなく、社会的投資等外部資金の確保のためにも地域伝統文化産業への投資効果を明らかにすることが求められつつある。こうした状況を踏まえて、本研究では『飛騨高山匠の技 DA』を取り上げ、それぞれの伝統文化活動の社会経済的効果及び意識的効果を定量的に分析することで、地域の伝統文化政策立案、財源確保への有効なモデルとなる。

一般に、社会的価値の評価手法には、図3に示す私的財としての価値と公共財としての価値の二つがある。私的財としては、例えば、

産業技術を考えたときに、これらの売り上げや商品開発などがそれにあたる。一方、伝統文化のような技術を考えるときには、私的財より公共財としての価値がある。例えば、将来世代のために維持したいとする遺贈価値、または、地域のアイデンティティや誇りとしての威信価値、その他、地域の雇用の創出や所得としての経済的価値がそれにあたる。

本研究では、地域振興に有効な伝統文化的事業の効果を検証するために、社会経済的効

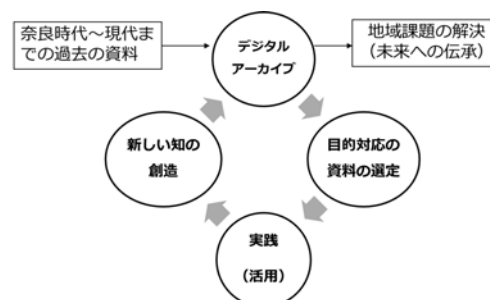


図3 社会的価値の評価手法

果と意識的効果の測定手法の併用によるインパクト評価手法で定量的に分析することが必要となる。

これによって、事業の効果を事前・事後にシミュレーションできるようになるとともに、効果の予測や効果が出なかった場合の検証ができるようになり、当該事業を継続させるために必要な財源確保に有効な論理的根拠の導出が可能になる。

### 4. おわりに

本学では、観光、教育分野で知的創造サイクルの一環として、「知の増殖型サイクル」を可能にするデジタルアーカイブの試行に成功している。本研究では、地域の伝統文化としての飛騨高山匠の技 DA を「知の増殖型サイクル」を可能にするために、ロジックモデルをもとに、各ステークホルダーを調査し、インプットとアウトプットの関係性をもとに効果測定モデルを行う実践的研究である。



この記事の著作権は著者に属します。この記事は Creative Commons 4.0 に基づきライセンスされます (<http://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>)。出典を表示することを主な条件とし、複製、改変はもちろん、営利目的での二次利用も許可されています。